

2026
1

Miss Japan News

ミス日本ニュース



ミス日本

2026年、第58代ミス日本が決定しました。



ミス日本グランプリ & 海の日のW受賞 野口絵子さん 21歳(慶應義塾大学3年・東京都出身)



ミス日本は これまでで一番高い山

アルピニストの野口健を父に持つ影響で、世界中の山を登り、素晴らしい自然を目の当たりにしてきました。6000mを超える過酷な登山によって育まれた挑戦心と不屈の精神が言葉に重みをもたらしています。受賞後のインタビューでは「いままで登ったどんな山より高い山だった」と声を震わせておりました。

石川県の能登半島地震の被災地に定期的に訪問しボランティア活動を続けています。海洋資源の維持にも関心が高く「THE BLUE CAMP」活動にも参加し持続可能な水産資源環境に至るために食の側面から社会に呼びかけをしています。

現場主義を掲げ、実際に見聞きして感じたことを基準に自らの行動を決めています。将来は子どもたちのために環境学校を作り、五感を使うことの素晴らしさを教えたいとお話しています。

ミス日本「水の天使」



志村美帆 しむらみほ
19歳 東京都
慶應義塾大学法学部法律学科1年

幼少から祖母にヴァイオリンを習い、現在では福祉施設に訪問しては演奏を披露しています。観劇の趣味が転じて「1789バステューユの恋人たち」に子役出演。この時に演劇の背景を学ぶためフランス遠征した際、下水処理場の見学をする機会がありました。子ども心に日本の水処理

のほうが素晴らしいと感じたそうです。将来は司法の道を目指して勉学に励んでまいります。

ミス日本みどりの大使



永田愛実 ながたまなみ
20歳 長崎県長崎市出身
日本大学法学部経営法学科2年

海と山に囲まれた長崎市で生まれ育ち、幼い頃からの遊び場であった山王神社では、戦争を乗り越えた「被爆クスノキ」に、みどりの力強さを感じて育ちました。高校時代には高校野球イメージガールを務め「伝える」表現の奥深さに気が付きました。

将来はタレントや映画など、表現を通じて人の心を動かせる俳優になるため、多様な経験を積む最中です。

ミス日本ミス着物



平嶋萌宇 ひらしまもね
22歳 福岡県福岡市出身
筑波技術大学産業技術学部
総合デザイン学科4年

耳が聞こえない壁を乗り越えて、手話と表情から伝わるあたたかみや取りで存在感を示す大学生です。姉とのユニット「LAND HEY」はろうの世界では知られたインフルエンサーであり、手話の魅力と面白さを

発信しています。言語も手話も超えて繋がれるような、新しい技術や取り組みを応援していきます。

準ミス日本



正木由優 まさきゆゆ
20歳 東京都出身
早稲田大学人間科学部
人間情報科学科2年

中学高校時代には生徒会に所属し、学生と教員それぞれの視点で調整を重ねた経験から、配慮と気配りに長けています。ファイナリスト13名の中でもリーダーシップを示し、また平嶋さんが困ったときには常に率先して行動し、助けてきました。

15年間松山バレエ団で培った表現力を武器に、将来はアナウンサーになるため日夜努力を続けています。



1月の活動ニュース

1月5日

表敬訪問 埼玉県下水道局
埼玉県下水道公社



ミス日本「水の天使」の高坂実優が、埼玉県を表敬しました。昨年発生した八潮陥没事故の状況や、未だ解明中ながらどうして大規模な陥没に至ったのかについてお話を伺いました。生活に欠かせない下水道がこれからも安心安全に使えるために、日夜努力されている姿が印象的でした。

使えるために、日夜努力されている姿が印象的でした。

1月10日

新宿の街を競争できれいに！
スポGOMI×ミス日本開催



街頭清掃活動・ゴミ拾いにルールを定めて競技とした「スポGOMI」の公式大会を開催しました。ミス日本受賞者・OG・ファイナリスト、そして協力団体ら総勢27名が西新宿を清掃。

30分で過去最高の合計20kg以上のゴミを集めました！

1月6日

令和8年度東京消防出初式
いつか来るその日のために今、防災



ミス日本グランプリの石川満里奈と、86年ミス日本グランプリで日本画家の中村麻美さんが、東京消防出初式に観覧ゲストとして登場しました。消火や救助の訓練実演、ドローンやロボットを使った救助実演など、東京の安全を支える皆様の日々の訓練の厳しさを感じる、素晴らしい演目の数々でした。

日々の訓練の厳しさを感じる、素晴らしい演目の数々でした。

1月16日

矢作川・豊川CNプロジェクト
シンポジウム



愛知県の矢作川と豊川流域では、水力発電や最新省エネシステムによりカーボンニュートラルを目指しています。その取組を紹介するシンポジウムに水の天使高坂が登場。高坂もCO2削減を研究していることもあり、町より大きい流域単位での大規模取り組みに感嘆しておりました。

いることもあり、町より大きい流域単位での大規模取り組みに感嘆しておりました。

2026年の年始め！ 賀詞交歓会にミス日本が登場しました。



1/6 日本下水道施設業協会 & 東京下水道設備協会



1/23 2026クボタグループ 賀詞交歓会



1/8 東京都合板組合連合会



1/15 内航海運組合合同 新年賀詞交歓会



1/8 上下水道7団体共催 2026年賀詞交歓会



1/23 横浜市下水道管理協同組合 賀詞交歓会



1/6 愛知県木材団体4団体 新年名刺交換会



1/20 日本マリン事業協会 新年賀詞交歓会

1月の活動ニュース

1月29日

国土緑化推進機構
企業と森のマッチングセミナー

2025みどりの大使の佐塚が、森林分野と企業活動のマッチングセミナーに司会として登場しました。世界では企業が社会にどのように寄与しているかを組み込むことが当たり前です。日本でもその潮流が広がりつつあることが紹介され、山や森を守り、育て、利用しながら豊かにしていくことの大切さが議論されました。

1月31日

管清工業野球交流大会
始球式に新ミス日本

新しい水の天使の志村美帆が、管清工業主催の野球交流大会・始球式に登板しました。全力で投げた球は下水道の引力により惜しくもワンバウンド。現代は下水道の維持管理と更生の時代です。投球で地面を叩いて地下の安全を確認したことにしました。

1月29,30日

高知から考える下水道の未来
第8回シンポジウム

高知県は南海トラフ地震の問題だけでなく、少子高齢化や人口減少が他県より10年早く顕在化していると言われます。しかし、この状況を逆にとり「最新防災技術や先駆的技術の実験場」と位置づけ、たくさんの技術と呼び込んでいます。受賞後すぐの出演となった水の天使志村美帆は、下水道は水をきれいにするだけでなく、エネルギーを生み出したりする側面も学びました。そしてなにより、これまで当たり前存在していた下水道の裏側には、こんなにも多くの人達が学び、維持し、改善を続けていることに気が付き、働くこと尊さや、下水道で働く人たちの誇り高さに感銘を受けておりました。



テレビ朝日「グッドモーニング」

1月の活動

- 5日 表敬訪問 埼玉県下水道局・埼玉県下水道公社/高坂
- 6日 令和8年度東京消防出初式 ゲスト/石川
日本下水道施設業協会&東京下水道設備協会
賀詞交歓会 司会/高坂
愛知県木材団体4団体 新年名刺交換会 司会/佐塚
- 8日 上下水道7団体共催2026年賀詞交歓会 司会/高坂
東京都合板組合連合会 賀詞交歓会司会/佐塚
- 10-11日 **ファイナリスト向け勉強会 第4期**
- 15日 令和7年内航海運組合合同新年賀詞交歓会 司会/高橋
- 16日 矢作川・豊川CNプロジェクトシンポジウム 司会/高坂
- 20日 日本マリン事業協会新年賀詞交歓会 司会/高橋
- 23日 2026クボタグループ賀詞交歓会 司会/高坂
横浜市下水道管理協同組合賀詞交歓会 司会/高坂
- 25日 **前夜祭激励会**
- 26日 **第58回ミス日本コンテスト2026**
- 29日 国土緑化推進機構 企業の森づくりシンポジウム
司会/2025佐塚
- 29-30日 高知から発信する下水道の未来 第8回シンポジウム
司会/志村
- 31日 明治神宮外苑×管清工業野球交流大会始球式/志村

1月のメディア掲載

- 26日 **ミス日本コンテスト開催・結果発表に伴う報道**
スポーツニッポン、日刊スポーツ、地方紙各紙など多数
OriconNews, ACTRESSPRESS、マイナビニュース
毎日キレイ/MANATAN、ビューティページメントメディア
WWSチャンネル、Audition & Debut、
みんなのニュース、フィールドキャスターほか
- 27日 **テレビ朝日「グッドモーニング」/26GP野口**
15,16,23日【WEB】FITNESS LOVE ミス日本便り掲載
9,11,22日【WEB】Deviewミス日本活動ニュース掲載
【冊子】日本下水道協会「下水道協会誌」寄稿/高坂
【冊子】林野庁「情報誌林野」寄稿/佐塚
【冊子】日本海事広報協会「海上の友」寄稿/高橋
【冊子】全日本海員組合会報誌「海員」寄稿/高橋

ファイナリスト勉強会 第4期

内面の美、外見の美、行動の美
これら3つの美を磨き、将来の夢を叶える実力を身につけます。



ゴミ拾いをスポーツにしてわかったこと／マーケティングの視点から



「スポGOMI」の大会開催の後に、日本財団スポGOMI連名の馬見塚健一先生と、服部進先生からお話を伺います。「ゴミ拾いは奉仕とボランティア」という先入観を打破し、競技性を付与することで周囲が喜んで参加するスポーツへと変貌したストーリー。いまや日本だけでなく世界中で楽しめるスポーツとなりました。他者に行動変容を促す工夫について、学び取りました。



自閉症者支援のAOAart



自閉症者の方々にアートでの能力開発を行い、経済活動に参加させることで、自立までこぎつける支援プログラムがAOAartです。昨年にワークショップや発表イベントに参加した2025準ミスの長尾巴菜子も講義に加わり、美術芸術のアプローチで障がいの壁を乗り越える方法を学びました。手を差し伸べるだけではなく、相手の自立を促すことが、真の多様性の在り方だと学びました。

今月のカリキュラム

10日

「ゴミ拾いをスポーツにしてわかったこと／マーケティングの視点から」

：日本財団スポGOMI連盟 馬見塚健一先生、服部進先生
「自閉症者支援のAOAart」：藤島大千先生、下村雄飛先生
「現役ミス日本からのメッセージ」：2025ミス日本 石川満里奈、高坂美優、佐塚こころ、高橋彩乃、長尾巴菜子

11日

「ウォーキング指導」：福村あけみ先生
大会リハーサル：ミス日本協会



現役ミス日本からのメッセージ



2025ミス日本の現役5名が自らの体験を振り返り、アドバイスをする会を開催。5人がそれぞれ思い出の活動をお話し、どんな思いで出演に挑み、成長に繋げていったかをお話します。また、大会直前ということで元出場者ならではのヒントや準備面でのアドバイスもたくさんお話ししました。ミス日本コンテスト大会当日がよりよいものになるように、全員がお互いのためを考えて活発なやり取りがなされました。



ウォーキングの指導



10月に行ったウォーキング指導の2回目です。今回は大会で使うドレスを身にまとい、衣装の良さを引き出す歩き方について練習を重ねていきます。「ウォーキングは1日にして成らず」です。改めて大会までのあと2週間て出来ることをやり切ろうと心に決めるファイナリストたちでした。